

(様式1)

令和元年度 学校評価結果報告書(特別支援学校用)

(1) 学校教育目標	児童生徒一人一人の障害の状態や特性に応じて、資質・能力の育成をめざし、自立と社会参加の達成を図る。
------------	---

(2) 現状と課題	小学部23名、中学部24名、高等部52名、計99名が在籍し、そのうち21名が隣接するはまゆり学園に在園している。認可学級は23学級であるが、指導学級として編成している21学級のうち12学級が重複学級となっており、障害の重度重複、多様化が進んでいるほか、高等部在籍数も増加傾向にあることから、児童生徒一人一人に応じた指導の更なる充実が求められている。 むつ下北地区唯一の特別支援学校であることから、就学や教育などに関する学校等や保育所、市町村教育委員会への支援のほか、移行支援に関する施設や事業所との連携について、更なる充実が求められている。
-----------	---

(3) 重点目標	1 児童生徒一人一人のニーズに応じた指導の展開
	2 キャリア教育の視点を生かした指導の充実
	3 地域との連携による特別支援教育の推進
	4 交流及び共同学習の推進
	5 生涯スポーツの振興

(4) 結果の公表	<ul style="list-style-type: none">・令和2年1月31日(金)に開催した参観日において、学校評価の結果の説明及び要望事項への回答を行った。・令和2年2月6日(木)に開催した学校評議員会において、教職員による自己評価と保護者アンケートの結果を説明するとともに、学校関係者評価を行った。・来年度4月に行われるPTA総会において、令和2年度学校評価結果報告書等の説明を行うとともに、同内容を学校ホームページにて公開する。
-----------	---

学校整理番号	特20
学校名	青森県立むつ養護学校
対象障害種別	知的・肢体

自己評価実施日	令和2年1月16日(木)
学校関係者評価実施日	令和2年2月6日(木)

(9) -イ 学校関係者評価委員会の構成
<ul style="list-style-type: none">・学校評議員6名(施設関係者3名、企業関係者1名、元PTA会長1名、地域住民1名)・保護者(PTA会長)1名・計7名

自 己 評 価				学校関係者評価		
番号	(5) 評価項目	(6) 具体的方策	(7) 具体的方策による目標の達成状況	(8) 目標の達成度	(9) -ア 学校関係者からの意見・要望・評価等	(10) 次年度への課題と改善策
1	児童生徒一人一人の教育的ニーズに応じた指導の展開	①児童生徒の実態に即した指導内容表の策定 ②ICFを活用した自立活動の指導の充実 ③複数配置された学校看護師による医療的ケアの実施	おおむね達成 ・全教職員による取組により、成果の共有が授業改善につながっている。	B	肢体不自由児の視線入力装置など一人一人のニーズに応じた教材教具を整備してほしい。 引き続き、子どもたちの実態に合わせた丁寧な関わりを継続してほしい。	教育課程の整備と児童生徒の実態に即した指導を適切に行う。 児童生徒のニーズに合わせた教材教具の整備に努める。

2	キャリア教育の視点を生かした指導の充実	①県特別支援学校技能検定発表会への参加 ②近隣施設における体験活動の実施 ③教員及び保護者のキャリア教育に関する理解の推進	おおむね達成 ・生徒の意識が高まり、授業への取組意識のみならず将来の自立や社会参加に関する意識が高まった。	B	昨今の気象状況や地域の電力事業の状況を考え、防災に関する意識を育む教育活動を取り上げること検討してほしい。 技能検定にむけての授業の継続に努めてほしい。	10月22日の大会に向け、授業における取り組みを継続する。 キャリア教育に関する理解啓発と一貫した指導内容の整備と学習活動の充実を図る。
3	地域との連携による特別支援教育の推進	①下北地区こども発達相談連絡協議会の開催 ②教育相談による小中高等学校等への支援	おおむね達成 ・全学部において、地域の人材や資源を活用した学習が行われた。 ・むつ下北地域の特別支援教育の拠点として、関係機関と連携した取組が行われた。	B	協議会における事例研修は、こどもにかかわる者として有益であった。地域全体で子どもたちへかかわる力を高めていくために、研修会の継続と広く周知していくことに努めてほしい。	関係機関や小中高校との連携強化のため、こども発達相談連絡協議会の内容の充実と関係機関への周知を図る。
4	交流及び共同学習の推進	①地域の保育園、小・中・高校及び近隣住民との交流活動の実施 ②居住地校交流の実施	おおむね達成 ・スポーツ交流のほか、外部講師による講演を小・中学校と合同で実施することにより、相互理解の深まりが見られた。 ・居住地校交流は小学部児童8名、中学部生徒1名が実施した。	B	引き続き地域との交流への継続と充実を図ってほしい。 居住地校交流への取り組みについて、保護者へ継続して説明することに努めてほしい。	関係校や地教委との連絡調整を適切に行い、内容の充実を図る。 保護者への居住地校交流の取り組みの状況説明を継続して行う。
5	生涯スポーツの振興	①青森県特別支援学校総合スポーツ大会・プレ大会への参加 ②県障害者スポーツ大会への参加	おおむね達成 ・プレ大会への参加にあたり、中・高等部と連携した取組がなされた。 ・陸上競技：中学部1名、高等部9名。 フライングディスク競技：高等部1名。 卓球：高等部6名の参加があった。	B	クラブ活動の継続と充実に努めてほしい。 生涯スポーツへの取り組みを継続するとともに、卒業後の取り組みについても保護者への理解啓発を進めてほしい。	中・高等部におけるスポーツ大会への参加に関する学習活動や交流及び共同学習の取組と連携して進める。 授業における取組を継続するとともに、保護者への理解啓発を図る。

(11) 総括	<p>学校経営の重点として設定した5点については、今年度の活動においても一定の成果が見られたが、課題を成果に転じつつ更なる充実につなげられるよう、次年度においても継続して取り組むことが必要であると思われる。</p> <p>教職員による自己評価では、昨年度から評価を下げた項目が「適切な学習内容」「各計画の活用」「連絡帳等による情報提供」「教職員間の連携」の4項目あり、これらの項目については学校課題として捉え、教育活動を充実させていく必要がある。</p> <p>保護者の評価点4及び3の項目が9割以上で、今年度の教育活動についてはおおむね評価をいただいております、引き続き教育活動を充実させていく必要がある。</p>
---------	--